新潮文庫

西脇順三郎詩集

村野四郎編

新潮社

にしわきじゅんざぶろうししゅう
西脇順三郎詩集

定価240円

新潮文庫 草199A

昭和四十年一月二十日 発行
昭和五十四年七月二十日 十八刷

編者 村野四郎
発行者 佐藤亮一
発行所 株式会社 新潮社
郵便番号 一六二
東京都新宿区矢来町七一
電話 業務部(〇三)(二六六)五一一一
編集部(〇三)(二六六)五四二一
振替東京四一八〇八番

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛ご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

㊫ 印刷・大日本印刷株式会社 製本・加藤製本株式会社
© Junzaburô Nishiwaki 1965 Printed in Japan

新潮文庫

西脇順三郎詩集

村野四郎編

新潮社版

1657

目次

Ambarvalia

Le Monde Ancien

コリコスの歌……一三
ギリシャ的抒情詩……一四
天気……一四
カプリの牧人……一四
雨……一五
菫……一五
太陽……一六
手……一六
眼……一七
皿……一八
栗の葉……一八
ガラス杯……一九
カリマコスの頭と *Voyage Pittoresque* ……二一
拉典哀歌……二二
Catullus ……二二
Ambarvalia ……二六
ヴィーナス祭の前晩……二八

Le Monde Moderne

恋歌……三一
失楽園……四四
世界開闢説……四四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

五月……四八
旅人……四八
コップの原始性……四九
理髪……五〇
セーロン……五〇
歯医者……五一
ホメロスを読む男……五二

旅人かえらず

はしがき　幻影の人と女……五五
一　旅人は待てよ……五七
二　窓に……五八
三　自然の世の淋しき……五八
四　かたい庭……五九
五　やぶがらし……五九
六　梅の樹脂……五九
七　りんどうの咲く家の……六〇
八　あのささやき……六〇
九　十二月の末頃……六一
一〇　暮れるともなく暮れる……六二
一一　行く道のかすかなる……六二
一二　ひすいの情念……六三
一三　あの頃桜狩りに……六三
一四　通つて来た田舎路は大分……六三
一五　菫は……六四
一六　蒼白なるもの……六四
一七　犬のおかしく戯れる……六四
一八　櫟のまがり立つ……六五
一九　窓に櫟の枯葉が溜る頃……六五
二〇　或る秋の午後……六六

二一　小平村を横ぎる街道……六七
二二　あけてある窓の淋しき……六七
二三　女郎花の咲く晩……六八
二四　くもの巣のはる藪をのぞく六八
二五　都の街を歩いていた朝……六八
二六　昔法師の書いた本に……六九
二七　耳に銀貨をはさみ……六九
二八　古木のうつろに……七〇
二九　竹が道にしたたる……七〇
三〇　渡し場に……七一
三一　或る女がゴーガンの絵と…七一
三二　なでしこの花の模様
　　のついた……七二
三三　いろりに……七二
三四　椽に……七三
三五　あかのまんまの咲いている七三
三六　十二月の初め……七三
三七　何者かの投げた……七四
三八　庭の隅人知れず……七四
三九　草の色……七五
四〇　心の根の互にからまる……七六
四一　永劫の根に触れ……七八

近代の寓話

近代の寓話……八三
秋……八五
南画の人間……八七
冬の日……八九
山櫨の実……九〇
アタランタのカリドン……九二

一月……九七
燈台へ行く道……九八
留守……一〇〇

第三の神話

I

十月……一〇五
二人は歩いた……一〇七
自伝……一〇九
夏の日……一一三

II

第三の神話……一一三

失われた時

I……一三一
II……一五〇

豊饒の女神

どこかで……一七一
季節の言葉……一七一
豊饒の女神……一七三
鶯……一七六
あざみの衣……一七八
九月……一七九
最終講義……一八七

えてるにたす

えてるにたす……二〇一

宝石の眠り

コップの黄昏……二三九
イタリア紀行……二三四
くるみの木……二三六
椀……二三七
茄子……二四〇
まさかり……二四一
エピック……二四三
雲のふるさと……二五〇
宝石の眠り……二五二
解説……村野四郎

西脇順三郎詩集

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertong

Ambarvalia

LE MONDE ANCIEN

コリコスの歌

浮き上れ　ミュウズよ
汝は最近あまり深くポエジイの中にもぐつている
汝の吹く音楽はアビドス人には聞えない
汝の喉のカーブはアビドス人の心臓になるように

ギリシャ的抒情詩

天　気

（覆(くつがえ)された宝石）のような朝
何人か戸口にて誰かとささやく
それは神の生誕の日

カプリの牧人

春の朝でも
我がシシリヤのパイプは秋の音がする
幾千年の思いをたどり

雨

南風は柔い女神をもたらした
青銅をぬらした　噴水をぬらした
ツバメの羽と黄金の毛をぬらした
潮をぬらし　砂をぬらし　魚をぬらした
静かに寺院と風呂場と劇場をぬらした
この静かな柔い女神の行列が
私の舌をぬらした

菫

コク・テール作りはみすぼらしい銅銭振り
であるがギリシャの調合は黄金の音がする
「灰色の菫」というバーへ行つてみたまえ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong